

台湾学校視察報告

2月17日に千葉大学の教授にお誘いを受け台湾の小学校教育を視察するチャンスに恵まれた。日本では2011年度より小学校5年生以上で英語が正式に教科になることになり、アジアでの英語教育を視察すべく、台湾を訪問した。

外務省からの連絡により中華民国私立教育事業協会にて理事長や有名校の校長方、英語担当教師方が私達の為に集まってくれ、いろいろなお話を聞くことができた。

中華民国私立教育事業協会



1. 立人国際中小学 (台北市、りつりん)

蘇先生

K~中学校

21人の英語の先生、2人の homeroom teacher (中国語と英語の先生が一人ずつ)、外国人講師3人、台湾人講師7人

15冊の英語の本と45冊の中国語の本を1年間に読ませる。

テストにより次の年のクラス編成をしている。

2. 静心小学 (台北市、Chingshin Elementary & Middle School)

2歳~15歳、保育園、幼稚園、小学校、中学校

英語教育は6年目、最初は英語の能力別に別けて(5段階)、今はレベル差が少なくなったので、3段階。

3. 中道国際中小学 (農村部、Chung Dou International School)

2007年9月にバイリンガル教育を始めた。

40時間中20時間が英語で、英語と中国語の homeroom teacher 一人ずつ)

広いキャンパスできれいな学校、情熱的な先生

台北市の市学校英語は最初週1回で始まり、週2回になった、そのあと3年生からになり、今は1年生から行っている。台北市の公用語は中国語と英語、将来台湾全体の公用語も中国と英語になる予定。台

湾全域で2001年から5年生以上に英語が必修科目として始まり、2005年から開始学年を3年生に引き下げた。

台北、台中、高雄などではすでに英語教育を1年生から行っている。一般の公立小は外国人講師を雇えない。教育検定試験に合格すれば小学校で教えられるようになることが検討されている。

台湾では親は英語教育に熱心。台北市の市制会議では英語が公用語。英語は **subject** ではなく、**tool** なので、**identity** を犯さない。公立小では週2回の英語クラスだが、その他に塾にも行っている。私立は週5回以上の英語のクラスがある。

翌日より私達は、私立の幼稚園から中学校や高校まである「静心国民中小学校」や「復興実験高級中学」、公立の今年バイリンガル教育を導入する「文化国民小学校」を訪れた。

「静心国民中小学校」では放課後14人の生徒と懇談会を設けてくれたが、私達の英語の質問に生徒が答えてくれた。その半数が放課後英語を習っていた。やはり半数が日本に行ったことがあると答えた。この学校では英語の本を年間15冊読んでいる。日本の英語教育の立ち遅れを再認識した旅であった。

静心国民中小学校

1951年創立のバイリンガルスクール。6年生のクラスを見学。テキストは「Backpack 5」（米国のELS用）を使用。45分クラスを週5回。Nativeの講師によるクラスは週1回。



私立復興実験高級中学

1946年創立の台北の学校。年長から高校生まで。2006年に高校を設立。IT教育は3年生以上高校生まで行っている。ボストンの学校と交換留学。English Libraryには2570冊の本を所有する。校長はカリフォルニアの博士課程卒。





文化国民小学校（公立）

1987年に創立した台北の郊外にある学校。教師98人中のうち54人が修士または博士を卒業している。語学、情報、芸術、健康、モラルの五つに重きを置いている。生徒数1787人で、小学校54クラス、幼稚園2クラスから成る。

9人の英語専任教師と5人の非常勤英語講師がおり、幼稚園から6年生まで英語のクラスがある。2001年から英語の授業を増加させている。6-7年前から週に5クラスの英語の授業。最近では各学年、週に8~9クラスの英語の授業を行っている。英語クラスでは英語のみの授業を行っている。コンピューターなどを使い2ヶ国語教育に努めている。

2008年8月よりバイリンガル教育を開始する予定。12,000冊の英語の本を所有する。ブリスベンの22名の小学生がホームステイをする。

